

CSデザイン

学生賞

2008

www.design-awards.jp

CSデザイン
学生賞
2008

www.design-awards.jp

工事現場用仮囲いのレジュアルデザイン

車両のシルエットデザイン

自由課題



審査員講評

環境の一部としてのデザイン

工藤青石

CSデザイン学生賞は工事現場用仮囲い、車両のビジュアルデザインという、環境の中でのデザインのあり方、役割、可能性を考える事をテーマとしている。又自由課題部門では、それらの範囲にとらわれない「貼る絵の具」としてのカッティングシートの可能性を学生のピュアな眼差しによって見つける事をもう一つのテーマとしている。そして優秀な作品は具体化されるという事が、この賞の大きな特徴であり、学生にとってはこの上ない機会を得るチャンスである。

今回、金賞を受賞した吉浦菜夏さんの作品は、その静かな佇まいが他と一線を画した作品だ。街の中でのグラフィックデザインの役割は多岐にわたる。もちろん機能的に何かを伝達する事や、楽しさや、美しさを伝える事もある。では「はかなさ」はどうだろう。ドット絵の非常に無機的でシンプルな構成でありながらそこに描かれた無言のストーリーが何ともはかなく、悲しい気持しさえ起こさせる。仮囲いの設置される環境を考えると、工事現場や街自体も刻一刻と変化してゆき、一時もとどまっている事の無い、瞬間の出来事がくり返されている場所であるという無常観をこの作品から感じた。「新しさ」「明快さ」「発想力」「表現力」「強さ」「オリジナリティー」、そういうベクトルとはちがう「詩情」がこの作品の評価につながったと感じる。そしてデザインの中にそういう情緒を感じるもののが今、新鮮に見えるのかも知れないと思う。コマ送りのマンガの様に歩く人の視点からすると、時間軸を伴って表現がされている点も独自の方法であり、評価の対象となった要素だと思う。

仮囲い部門賞の北澤彩さんの作品は、壁面を柔らかい布に見立てるという発想がユニークで、おおらかな表現が布の柔らかさ、優しさをうまく伝える秀作であった。車両部門賞の高橋謙吾さんの作品は、車両がチェックパターンの布で包まれてしまったかのようなデザインで、誰もが一瞬でそのアイディアの面白さを共有できるプランであった。実際に街の中を走ると、きっととてもかわいらしく、しゃれた「チェックの電車」として愛されるデザインだろう。総じて、アイディア重視のプランや幾何学的でグラフィカルな表現、または具象的な表現が多く見られる中にあって、仮囲い佳作の梶内雄平さんの作品は、独自の造形を追求する姿勢に好感がもたれた。想像上の建設物はそれぞれにユーモアを含んで楽しいものであった。今後より完成度の高い造形が表出する事を期待する。自由課題佳作の池田雅恵さんの作品はビジュアルとしての完成度も高く建設現場をおもちゃの世界で表現する事で愛らしい風景に転化しており評価を集めた。ただし、レゴブロックの持つ既存のイメージに負うところも大きい点が、審査員によって評価を分けるポイントとなり結果的には佳作にとどまった。

新しいアイディアや美しいバランスの探求、こめられたメッセージはそれぞれの作品から感じる事ができた。一方若々しいエネルギーが伝わってくるものをもっと見たいと思った。そういう意味でも今後、自由課題部門への実験的なアプローチが増える事を期待する。

(デザイナー/クリエイティブディレクター)

金賞

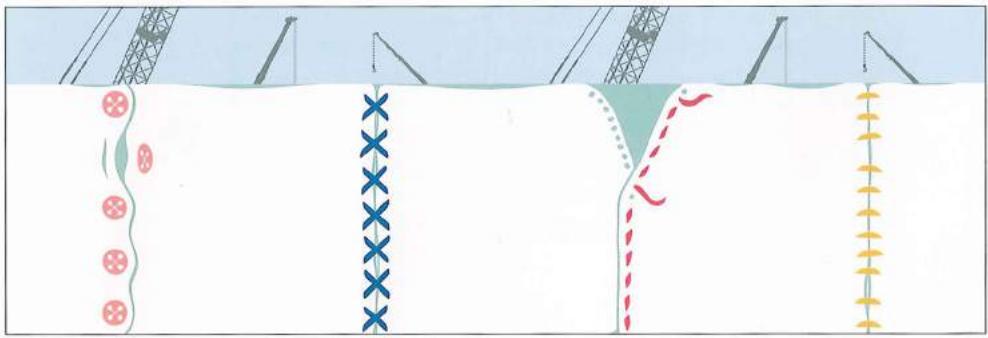
工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン



1

部門1 工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン

部門賞



2



1 金賞

吉浦菜夏／武藏野美術大学 基礎デザイン学科専攻
工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン

作品コンセプト

内側の世界を隠す壁、というマイナスなイメージではなく見えない新しい何かが作られているというわくわくした気持ちや楽しみを抱いて多くの人に見て欲しいと思いました。

2 部門賞

北澤 彩／東京コミュニケーションアート専門学校
グラフィックデザイン専攻

作品コンセプト

工事現場と日常生活を共有する仮囲い。

灰色の印象を持つ工事現場を、白く高い壁で囲っても、その威圧感や刺々しさは隠せない。そこで今回私は白い壁を布に見立て、堅い建築物を優しく包む柔らかい壁を表現した。

3 佳作

川内 友／東京コミュニケーションアート専門学校
イラストレーション専攻

作品コンセプト

工事現場に於けるマイナス点を軽減するための、華やかなデザインの制作。

柔らかな曲線を多く使用し、全体に親しみやすい印象を与えました。また、一見、工事現場を感じさせない鮮やかな色彩を用いたので、遠目からも目を引く事になるでしょう。

建設現場という一つの空間を、新しく柔らかな感覚で触れあえる、「魅せる仮囲いのデザイン」を提案します。

部門1 工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン

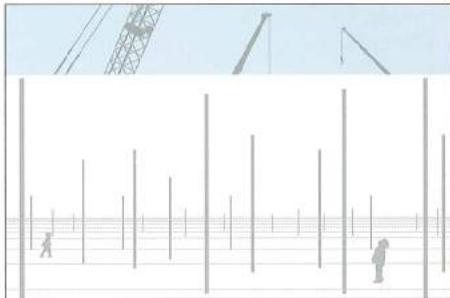
佳 作



3



4



5



6

4 佳作

巣内雄平／多摩美術大学 グラフィックデザイン学科専攻

作品コンセプト

「こんな建物あつたらいいな」「ここは何が建つんだろう」などと、通行する人びとに想像してもらえるようなメディアにしたいと思い、「空想建築」のビジュアルを作りました。中で何が起っているか見えないことで逆に想像力が湧いてくるんじゃないかなと思い、楽しく空想の建築が出来上がっていくかのような想像ができるメディアにしたいと思い作りました。バオバブの木からイメージした大木マンション（図4）や西洋の教会をイメージした空飛ぶ教会堂などの扉部分に「工事中」のロゴと空想建築にかかる経費をレシートにして表記してみました。

5 佳作

富山晃一／鹿児島大学 工学部建築学科専攻

作品コンセプト

建物が消費され、工事現場の仮囲いができる。

悲しいとか虚しいとまでは言わないけど、なんだか味気ない。なぜだろうか。それは、今まで奥行をもって感じられていた空間が、ただの平面になってしまふからだと思う。

絵を描く楽しさの一つは、ただの平面だった紙に奥行が生まれ、空間を感じることが出来るところにあるような気がする。

平面になってしまったことは仕方がない。

そこにはまた空間と奥行を与えてあげればいい。

それは、絵を描くのと同じでとても楽しい行為であるから。

6 佳作

吉田知央／和歌山大学

システム工学部デザイン情報学科専攻

作品コンセプト

「スピードアップ、する？」

工事現場の横を歩くのって、誰にとっても快いことではないですよね？

早く過ぎてしまいたい・・・。そんな思いを手助けする仮囲いです。

なんだか早く歩けている感じがする！出勤する足取りも軽くなる！

ある日、毎日スピードアップしていたその場所がゆっくりに感じるとき、気づく。

「あ！新しい建物が完成したんだ」

ゆっくりした気持ちで、街の新人をお出迎え。

環境とのかかわりを考えたデザインを

CSデザイン学生賞は回を重ねるたびに応募作品の内容が充実し、今回も白熱した審査会となつた。

金賞の吉浦さんの作品は何ともロマンティックな作品だ。ドットで構成されたイラストが集合して一つの形になつたり、その形が消えてしまつたり、動きや流れを感じさせる。優い印象を与えるながらも、何か人を惹きつけてしまう不思議なパワーが間違ひなく存在し、他を圧倒して金賞に輝いた。

仮囲い佳作の富山さんの作品は、奥行きを感じさせる表現にプラスして、子供が柱を見上げている姿、走っている姿をすべてモノトーンで表現している。建築を学んでいるアド

バンテージが発揮され、不思議な魅力とデザインのセンスを感じた。

車両部門賞の高橋さんの作品は、「電車に服を着せる」という発想から生まれたという。タータンチェック柄をその風合いを生かしてデザイン化したもので、どこかで目にしたことがある懐かしい柄が車両となった場合を想像すると、なんだか楽しくなる。ユニークなアイデアを実現可能な形で表現した事が高く評価された。

仮囲いや車両など環境のデザインには、3次元の感覚が必要とされる。それを養うのは、アイデアを立体にすること。仮囲いであれば切って曲げて仮囲いの塀を作つてみると、平

面では見えなかつたことが見えてくるはずだ。車両でも、とにかく4面を貼り合わせ模型にしてみる。そこではじめて何かに気づくことができる。そして仮囲いや車両が回りの景色とどういったバランスをとるのかいか、豊かに想像してもらいたい。そうした過程が環境にかかるわるデザインではとても大切なことだと思う。

カッティングシートという自由自在に使うことができる材料を、早くから手にこし、考えることで、実は皆さんは環境のデザインのあり方について同時に学んでいるのだから。

次の世代へ次のテーマを

廣村正彰

建設現場の仮囲いはカッティングシートの出現でその意味が大きく変わりました。ただ遮蔽する壁面からメッセージを伝えるメディアとして都市景観の一部になり、路面電車やバスなども同じように動くメディアとして生活の風景に馴染んできました。

この新しいメディアはポスターより大きく迫力があり、ビルボードなどより目近に訴求できることで、多くの企業が競って表現訴求する場になっており、デザイナーもアイディアを競つて制作しているのが現状です。

今回のCSデザイン学生賞の応募作品を見ると、現在の仮囲いや路面電車の使われ

方を出品者達は冷静に観察し、分析してから応募作品を制作したのではないでしょうか。出品作品の全体的な印象が現状の使われ方とは逆にとても静謐で、ゆっくり語りかけるような作品が多いと感じたからです。

金賞受賞の吉浦さんも白い画面を有効的に使い、初期のデジタル画像のような粗いドットポイントで男女の出会いを表現しています。ミニマルでシンプルなアイコンは歩く人の目線に合わせて移動することで点から団になり、また都会の喧噪に消えるかのように散っています。ここでの仮囲いの大きな白い画面は、周辺の環境や広告などに埋没することを避け、

あえてアイコンがぼつと存在することでユーモアやアイロニーを象徴的に引き出すことに成功しているのです。

CSデザイン賞は26年前からシート素材の創造性や都市景観におけるモラルの啓蒙に貢献されてきました。この学生賞もすでにスタートして10年経ち、現在の技術の発達や素材自体の社会への浸透度の高さを考えると、学生達の自由な発想を広げるために公募のシステムやテーマの改定などが必要な時期になってきたのかもしれません。

審査を終えて

松下 計

プロフェッショナルな人たちが様々な条件をクリアしながら仕事を仕上げるのに対して、学生さんたちの作品は、総じて人間味に溢れ、伸びやかで自由な作風のものが多くあつたと思います。

ただもうひとつ突っ込んでみて欲しいのは、自由であるからこそ「こうあってもいいのじゃないか」あるいは「本来こうあるべきなのじゃないか」という提案性に満ちた作品と出会えると良かったと思います。仮囲い、電車のボディならではのビジュアルの作り方というは

きつとあるのではないかと思います。

「何に対して」ビジュアルを造っているのかもう少し意識して良いと思いました。

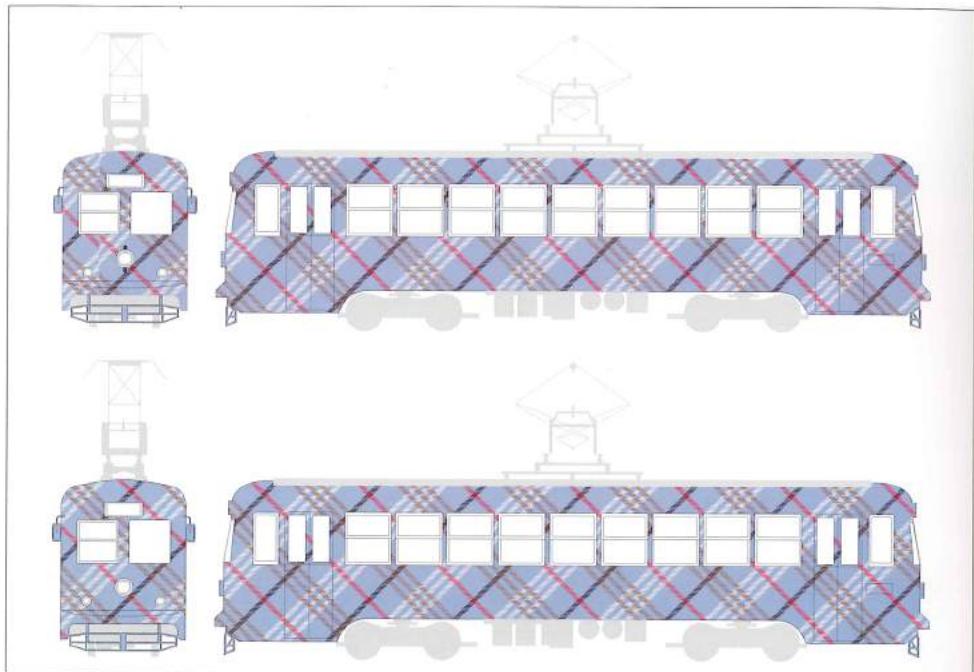
仮囲い、電車のボディ双方とも都市の一部分を彩るわけで提案された作品によつてどのように風景に影響をするのかもう少し自覚をしてもらつてもよいのかなとも思いました。

特に電車は動くメディアですのでそのへんに対する意識がもう少しあれば、児童の描いた絵を乗り物の壁面などに使用するものはひ

と味違う、デザインコンペティションらしいものになってゆくのではないかと思います。

もうひとつ学生さんたちが制作をする際に心がけて欲しいと感じるのは、一度見た事があるものからはむしろ意識して離れてゆくような精神が欲しいと思います。何にも似ていないオリジナリティに溢れるものを造ることは想像以上にたいへんな事です。どこかで見たことがあるな、と感じさせる作品には少し厳しい審査がされたと思います。

部門2 車両のビジュアルデザイン 路面電車「岡山電気軌道3000型」岡山市
部門賞／佳作



1



1 部門賞

高橋謙吾／多摩美術大学 グラフィックデザイン専攻

作品コンセプト

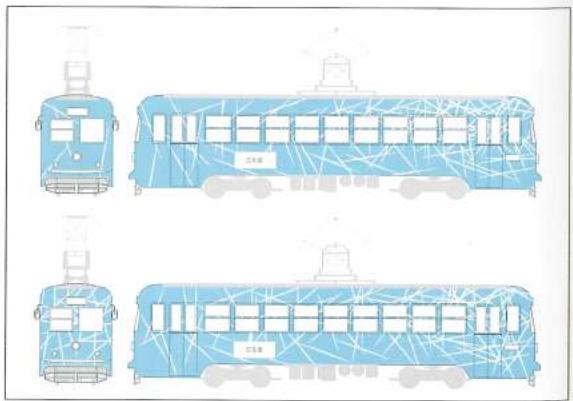
街に買い物や遊びに来ている人たちは、それぞれにおしゃれをして来ていると思う。だから、街を行く路面電車もおしゃれに装飾ったらおもしろいと思った。チェック柄を選んだ理由は、電車に服を着せたいと思い選んだ。

2 佳作

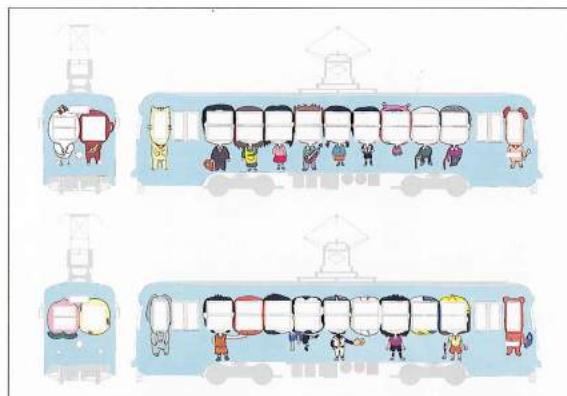
望月未来／愛知教育大学 プロダクトデザイン専攻

作品コンセプト

車両が走り抜けたときに起こる空気の動きを感じられるようなものにしたいと考えました。



2



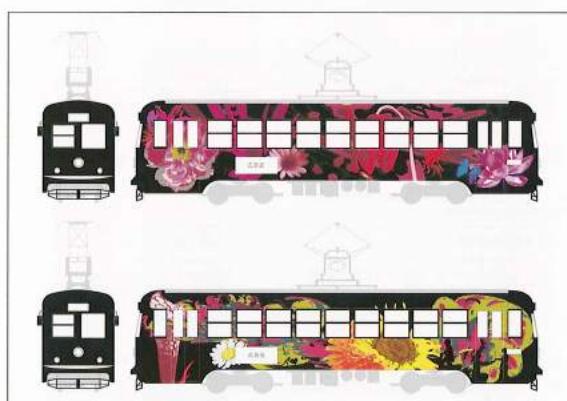
3

3 佳作

細川 実加／香川県立高松工芸高等学校
デザイン科専攻

作品コンセプト

電車の窓を利用して観光とかによくある窓を顔の部分にして描きました。



4

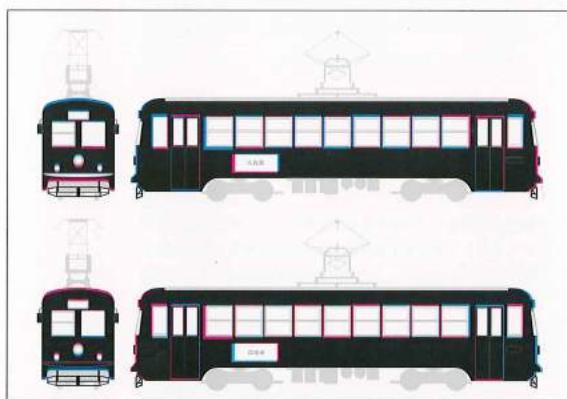
4 佳作

三橋諒太／和歌山大学
システム工学部デザイン情報学科専攻

作品コンセプト

電車は、鉄道マニアや少年をたびたび魅了します。しかし、女性（鉄子を除く）にはタダの交通手段でしかありません。そのため、私は女性、特に主婦層をターゲットとし、「華やかさ」「美しさ」を表現するために花をモチーフに色彩豊かなデザイン提案を行いました。これにより、何気なしに遠方へ足を伸ばす女性が増え、その道中にいくつかのコミュニケーションが生まれます。

その場こそが、電車であればいいなと考えました。



5

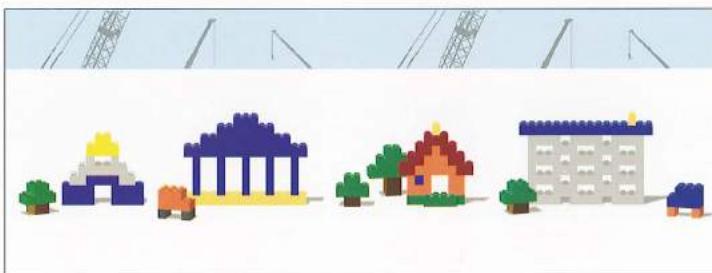
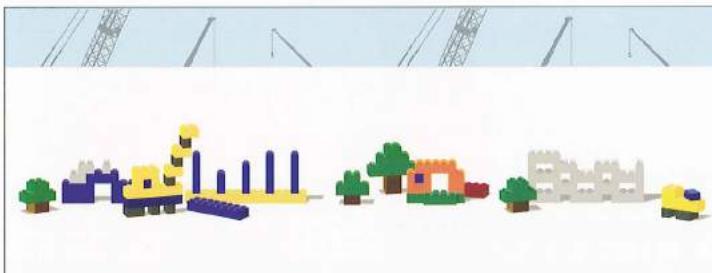
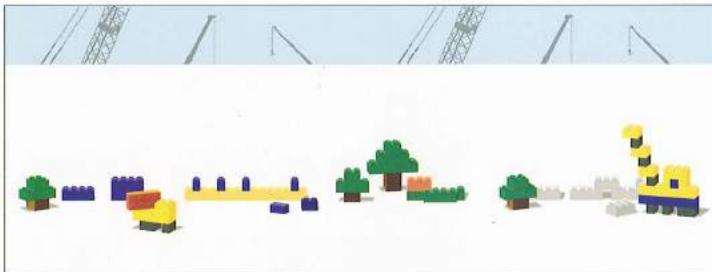
5 佳作

高橋謙吾／多摩美術大学
グラフィックデザイン専攻

作品コンセプト

電車は人を乗せて動いている時のほうがより電車らしいと思った。だから、電車自体のデザインが、ものが動いている時の残像効果のような表現だとおもしろいと思いつくってみた。

部門3 自由課題 佳 作



佳作

池田雅恵／東京藝術大学 美術研究科デザイン専攻

作品コンセプト

工事現場用仮囲いの、実験的なビジュアルデザインの提案です。「組み立てる」という行為を身近に感じてもらえるモチーフとして、おもちゃのブロックを使用しました。建物が完成していく様子を、実際の工事の進行に応じて3段階のビジュアルで表現し、工事が進んでいくにつれ、仮囲いの絵のブロックもだんだんと積み重なっていきます。そのことによりやがて完成する建物への期待感を膨らませてもらえるような効果をねらいました。



1



2



3



4



5



6

佳作

赤木恵里 + 小笠寺朋絵／女子美術大学大学院 デザイン専攻ヒーリング造形

作品コンセプト

児童館施設において、子供たちがより安心して過ごせる空間になるように、子供たちと児童館職員方と共にデザインテーマを考え、デザインを制作しました。

1 ロビー（テーマ：花）

2・5 児童室①（テーマ：海）

3 児童室②（テーマ：森）

4 幼児室（テーマ：おかし）

6 幼児室と児童室②の間の仕切り窓（テーマ：おかし）

■審査員プロフィール■



工藤青石

1964年東京生まれ。

1988年東京藝術大学卒業。

資生堂を経て2005年コミュニケーションデザイン研究所(CDL/Communication Design Laboratory)設立。コミュニケーションをデザインするという視点にたって、プロダクトデザインからブランドイメージのディレクションまで分野を横断的に活動を行う。

東京藝術大学非常勤講師。

主な仕事：「SHISEIDO MEN」「イッサ」など化粧品のプロダクトデザイン、パッケージデザイン。

化粧品ブランド「キオラ」のブランドイメージクリエイティビティディレクション、商品、ニューヨークショップのディレクション、デザイン。銀座ハウスオブセイドウのインターラクティブな装置「アーカイブ・テーブル」のプランニング、デザイン。JAL機内用品デザインディレクションなど。

受賞：毎日デザイン賞、東京ADC賞、米国建築家協会ニューヨーク最優秀デザイン賞、ID AWARD、日本パッケージデザイン賞大賞、DDA賞大賞、CSデザイン賞大賞、SDA賞、JAGDA新人賞、ニューヨークADC賞銀賞など。

会員：東京ADC（東京アートディレクターズクラブ）、JAGDA（(社)日本グラフィックデザイナー協会）、JPDA（(社)日本パッケージデザイン協会）。



菊竹 雪

1958年東京生まれ。

1981年日本女子大学住居学科卒業。

(株)日本デザインセンターを経て、1990年株式会社コンバッソ設立。

1994年文化庁派遣芸術家在外研修員として、英国Royal College of Arts在籍。

法政大学デザイン工学部建築学科講師。

主な仕事：新ビル、講談社、原宿's、YM Square Harajuku、島根県立美術館、江戸東京博物館、イタリア文化会館などの工事現場仮面団デザイン。

神戸M・INTの壁面や札幌JRタワーの駐車場アートワーク。

東京電力の社宅リノベーションにおける建物外観デザインなど、建築環境とグラフィックを結び付ける「環境グラフィックデザイン」という新しいデザインの分野に取り組んでいる。

受賞：日本デザイン大賞、JCDデザイン賞、日本ディスプレイデザイン賞、通商産業大臣賞、Gマーク賞、CSデザイン賞大賞、JAGDA新人賞、ニューヨークADC賞銀賞、英國D&AD銀賞、Brunel賞など。

川崎市都市景観審議会委員。

会員：D&AD (British Design & Art Direction (英))、JAGDA ((社)日本グラフィックデザイナー協会)、AACCA ((社)日本建築美術工芸協会)。



廣村正彰

1954年愛知県生まれ。1977年田中一光デザイン室入社。

1988年廣村デザイン事務所設立。

現在東京工芸大学准教授。

主な仕事：岩出山中学校 サイン計画。埼玉県立大学 サイン計画。竹尾ペーパーショウ企画、構成、AD。

公立団体未来大学 UI計画。札幌メディアパーク「スピカ」CI、ADサイン計画。東京証券取引所 サイン計画。日本科学未来館 CI、サイン計画。六本木一丁目泉ガーデンCI、サイン計画。CODAN東雲VI計画、サイン計画。モリサワカレンダーAD。北千住丸井サイン計画。丸善丸の内店舗サイン計画。日本健外SOHOサイン計画。大阪開電ビルディングサイン計画。心斎橋そごうサイン計画。日産自動車デザインセンター サイン計画。

竹尾鷲岸物流センターサイン計画。横須賀美術館VI計画。福生市市庁舎サイン計画。特種製紙株式会社AD顧問。株式会社ノ国屋AD顧問。横須賀美術館AD。丸ビル空間宣伝会員AD。

著作：「空間のグラフィズム」(六曜社)、「デザインのできること デザインのすべきこと」(ADP)、「世界のグラフィックデザイナーシリーズ ggg Books」(ギンザ・グラフィック・ギャラリー)。

受賞：JAGDA新人賞、毎日広告デザイン賞部門賞、ニューヨークADC賞銀賞、CSデザイン賞銀賞、グッドデザイン賞、SDA賞最優秀賞、DDA賞優秀賞など。

会員：JAGDA ((社)日本グラフィックデザイナー協会)、東京TDC(東京タイピディレクターズクラブ)。



松下 計

1961年横浜生まれ。

1987年東京藝術大学美術学部デザイン科、同大学・同学部ビジュアルデザイン専攻科大学院修了。

1990年松下計デザイン室設立。

現在同大学の美術学部デザイン科准教授。

主な仕事：近作に、竹尾ペーパーショウ2005総合ディレクションおよび展覧会書籍のデザイン、コクヨデザインアワード2005・2006ディレクション、コクヨデザインアワード2005・2006告知媒体デザイン、東京オリンピック誘致用コンセプトブックディレクション、21_21 DESIGN SIGHT展覧会カタログ等のディレクション、ホルベインの具「油」パッケージデザイン、ファッショングループ「b6」オープン告知における総合ディレクションおよびサイン、webデザイン。

他にレオナルド・ダ・ヴィンチ—天才の美術展等、展覧会告知媒体ディレクション多数。活動はグラフィックデザインの他、サイン計画や書籍、web、パッケージ等多岐にわたる。

受賞：安宅賞、毎日新聞広告賞、JAGDA新人賞、ADC賞、文部科学大臣賞など。

会員：東京TDC(東京タイピディレクターズクラブ)、JAGDA ((社)日本グラフィックデザイナー協会)、AGI (L'Alliance Graphique Internationale) (仏)。

CSデザイン学生賞 2008 [募集要項]

「色を通じて社会に貢献したい」と願う中川ケミカルは、豊かな環境づくりを目的に1982年CSデザイン賞を設けて優秀作の顕彰につとめてきました。1998年にはCSデザイン学生賞を併設して、環境のデザインをテーマに選び、学生作品を広く募集しています。

募集内容

装飾用シート<NOCSノックス>の使用を前提としたデザインとします。

- (1) 工事現場用仮囲いのビジュアルデザイン
- (2) 車両のビジュアルデザイン：路面電車「岡山電気軌道3000型」(岡山市)
- (3) 自由課題：平面・立体を開わず実験的な作品でNOCS、CS、フォグラスなどをベースとした表現であれば他素材との組み合わせなど特に規定はありません。

審査の方法

(1)(2)は、規定のデザインフォーマット上に作画した「デザイン」の審査とします。(3)は、特に規定はありません。

応募資格 応募期間中に、在学の方に限ります。

応募の方法

Webサイト「CSデザイン学生賞」(www.design-awards.jp)に掲載の応募要項にもとづき、必要事項を添付して、データ送信あるいはMO、CD-R、手描き作品等を郵送してください。

- 作品形態 規定のデザインフォーマットに準じたデータ、またはA3判の用紙とします。工事現場用仮囲いのビジュアルデザインのサイズはA3判2枚横つなぎを最大とします。
- 表現方法 グラフィックソフトによる作画、または手書きの作画。(1)(2)は専用フォーマットをWebサイトよりダウンロードしてください。またはフォーマット用紙を募集係よりお送りします。グラフィックソフトはアドビ社の「Illustrator」限定。バージョンは8.0～CS2。バージョン特有のフィルターは使用不可。使用フォントはアウトライン作成をしてください。大型インクジェットプリンタによる表現(グラデーション・写真など)は不可。デザインによって施工時に原画を再現できないものがあります。
- 色指定 装飾用シート<NOCSノックス>による色指定とします。
Webサイトにてシート色による着色ができるデジタルカラーチャートを無償提供しています。(着色はNOCSのみCS200での色指定は不可)
現物シートの色見本が必要な場合は募集係までご連絡ください。

審査員

工藤青石(審査委員長) 菊竹雪 廣村正彰 松下計(敬称略)

協賛 デザインの現場

協力 岡山電気軌道株式会社

後援団体

- 社団法人 日本グラフィックデザイナー協会
- 社団法人 日本商環境設計家協会
- 社団法人 日本サインデザイン協会
- 社団法人 全日本屋外広告業団体連合会
- 社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会
- 社団法人 日本ディスプレイデザイン協会
- NPO法人 日本タイポグラフィ協会 (順不同)

主催 株式会社中川ケミカル

